



分娩事故を防ぐために ～母牛・子牛にやさしい自然分娩～

自然界では、動物は自力で分娩します。本来、介助は必ずしも必要ではありません。不必要な介助・牽引は、却って母子のリスクにつながります。自然な分娩の流れを知り、介助が必要なタイミングをもう一度考えて見ませんか？

1 正しいお産の流れを知る

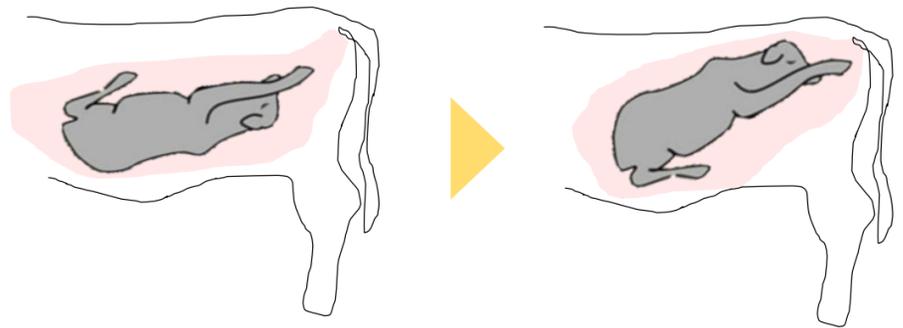
第1期（開口期） 子宮頸管の拡張と胎子の産道への侵入

母牛の変化

- 乳房の張り
- 尾の拳上
- 陣痛
- 寝起きを繰り返す

胎子の変化

胎子の背が上になるように回転



母牛の自由な寝起きが、胎子の正常な体位変化を促します。
寝起きが不自由だと、失位や難産の原因に・・・

第2期（産出期） 1次破水～胎子娩出



尿膜の露出、1次破水



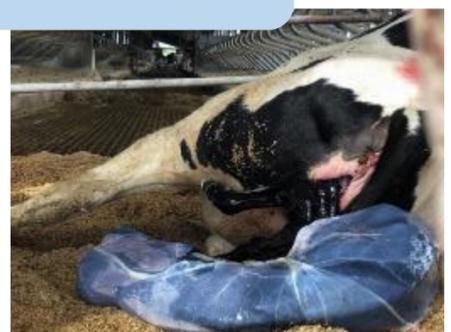
足胞の露出・2次破水

正常にお産が進んでいるか確かめるには、分娩開始がいつか把握する必要があります。



牧草作業で忙しい時期こそ、**分娩看視カメラ**が活躍します！

胎子の骨盤が産道を抜けると、その後は自然に後足まで抜けて娩出されます。



この段階はまだ産道が開いている途中です。
正常に分娩が進んでいれば、牽引は早すぎる段階です。

2 早すぎる牽引は母子ともに高いリスク

早すぎる牽引・強い牽引

産道が緩み切っていないのに引っ張られる

母牛のリスク

産道の損傷

産後回復の遅れ

繁殖障害

胎子のリスク

臍帯の圧迫・呼吸不全

アシドーシス
初乳IgGの吸収低下

死亡率・発病率上昇



↑自然分娩では、
臍帯はつながったまま娩出。
血流減少後、自然に断裂します。

3 分娩に適した環境づくり～牛にやさしいお産を～

理想の分娩環境の条件

- 滑らない牛床
- できることなら分娩房を（目安：7.2～12.6㎡／頭）
- 繋ぎ分娩なら尿溝をふさぐ
- 清潔である

母牛が寝起きしやすい
ことが最も重要です



免疫機能が十分でない新生子牛が
最初に口にすることは**初乳**でなけ
ればなりません。糞尿はNG！！



【参考文献】 分娩事故を防ぐためのポイント（Dairy Japan社 石井三都夫 著）

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

○ 分娩介助について

分娩の経過時間により、介助の判断をしましょう。無理な介助・早すぎる牽引は、難産の誘発や産道の損傷、胎児の呼吸不全など、母子ともに事故が起きるリスクとなります。「いつもと違う、異常かな？」と感じた場合には、獣医師への往診を依頼しましょう。

マニュアルの
ダウンロード
はこちら→

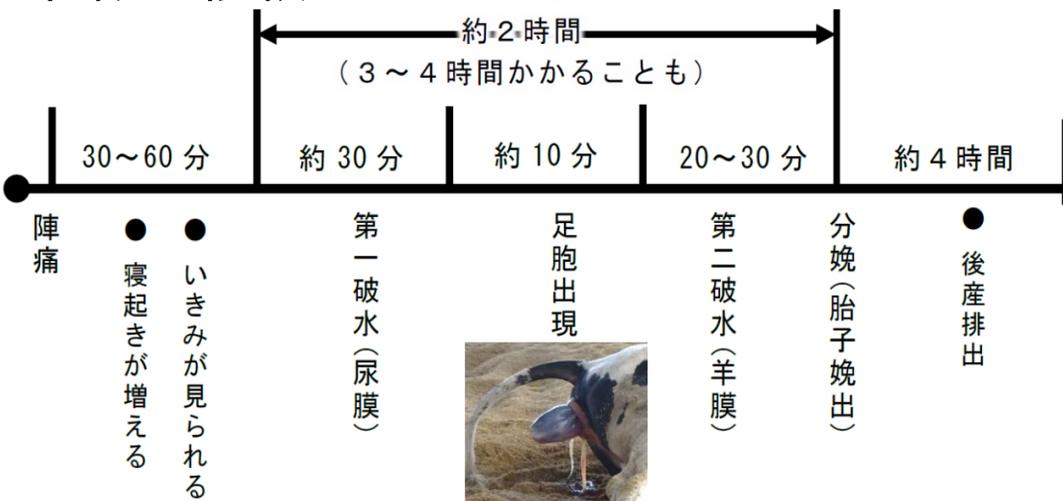


図 正常なお産の流れ

分娩異常が疑われる目安

- ① 陣痛開始後、6時間経っても破水しない
- ② 1次破水後、1時間経っても足胞が現れない
- ③ 足胞出現後、経産牛で1時間、初産牛で2時間経過しても生まれえない
- ④ 胎子娩出前に出血が見られる。